

北九州市立大学の政策実践プロジェクト

北九州市立大学法学部は、「ZERO距離」と呼ばれる少人数教育が特徴です。教員と学生が密接にかかわり合い、相互に学びあうなかで、社会の変化に対応できる人材育成を目指しています。

また、政策科学科では、公共政策分野の課題解決に向けた政策分析、政策立案能力を養うため、フィールドを重視した実践的な政策研究活動を行う「政策実践プロジェクト」を展開しています。多くの教員が独自のプログラムを実施していますが、2021年度に大分県白杵市で実施した田代ゼミの政策実践プロジェクトをご紹介します。



○取り組みの経緯

田代ゼミでは、2016年度に大分県白杵市において歴史文化資源を活用したまちづくりをテーマに政策実践プロジェクトを実施しました。この間、人口減少の加速、少子高齢化の進展、地域間競争の激化など地方都市をめぐる状況は厳しさを増しており、多くの自治体では、地域の持続性に向けた交流人口、関係人口による有効需要の創出、地域づくりの担い手の確保、移住政策、地域産業の振興と雇用確保、地域の魅力創出などに取り組んでいます。そこで、2021年度の政策実践プロジェクトでは、食文化をテーマにユネスコ創造都市ネットワークの加入を目指す白杵市の地域政策研究を行い、今後のまちづくり政策に関する検討と学生目線での政策提案を行うこととしました。

○プロジェクトの推進（2021年7月～2022年3月）



○フィールドワークの実施（2021年9月16～17日）

白杵中心市街地まちあるき：うすき町並みガイドの会

白杵市土づくりセンター視察：白杵市農林振興課有機農業推進室

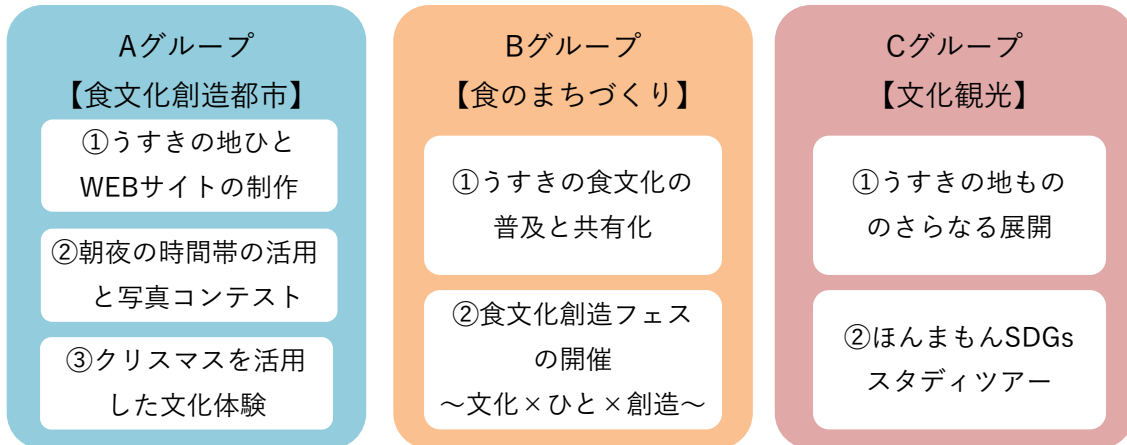
セッション1 地域経済の活性化：白杵市中央通り商店街振興組合

セッション2 白杵市の地域課題と創造都市への挑戦：白杵市秘書・総合政策課、食文化創造都市推進室

セッション3 歴史文化資源の活用と地方創生：白杵市おもてなし観光課、秘書・総合政策課



○3つのグループによる政策提案



Aグループ



私たちが考える臼杵 = 食文化創造都市の理想像
100年先まで愛される「ほんまもんまちづくり」
～交流と循環をデザインする～

地域内で「食」を通して、
①人を呼び込み、②循環させるデザインで、ファンづくり

①人の呼び込み → 観光客（交流人口）、ファン（関係人口）、移住者（定住人口）
②循環 → (A) 時間：早朝～昼間～夜間、季節のイベント、過去と現在
(B) 産業：食関連産業連関（農業・水産業×醸造業×飲食サービス業）
(C) 場所：ほんまもんツーリズム（臼杵 ↔ 野津）

Bグループ

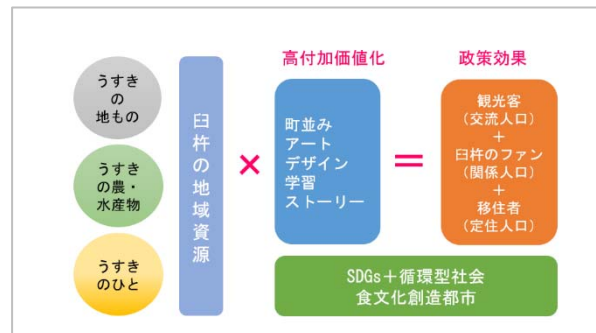
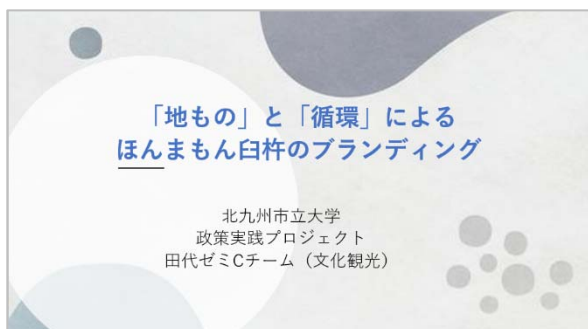


提案：食文化創造フェスの開催

【拡張する要素】

- ①臼杵の食
+世界の食（海外の食文化創造都市、ポルトガル）
- ②食べる場
+食文化を学び・楽しむ場
- ③日中の開催
+夜の時間での交流（スナックの活用）
- ④飲食店（商店街）によるフードの提供
+新しい食の開発
+市民、醸造会社の参画

Cグループ



※成果報告は、新型コロナウイルスの影響により、対面ではなく動画提供により実施しました。

【連絡先】

北九州市立大学 法学部政策科学科 教授 田代 洋久

E-Mail: tashiro@kitakyu-u.ac.jp